

(様式1)  
令和2年度 目標達成計画

園所名 志染保育所 園

良いところ自慢・・・自分の園所が自信をもって誇りに思えるような取組  
ここを改善・・・主にこれまでの特定教育・保育施設評価の中で課題・改善点として挙げた内容の取組

<b>教育・保育目標</b> ・自分の思いがはっきり言える子 ・元気な子 ・思いやりのある子
---

項目	園の現状や取組、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	成果	評価
共通課題	・新型コロナウイルス感染症予防対策について	・手洗い・消毒・うがい・部屋の換気を十分に行う。 ・3歳以上児・保育所職員・保護者はマスクを着用する。 ・3密を避けた行事のあり方を考える。	・各組で何度もスキルを身に付けるために繰り返し働きかける。(視覚・言葉・模範) ・保護者参加の行事について、何度も検討を重ね、時間短縮や規模の縮小を行った。 ・行事の保護者参加について事前説明を行い、今後の見通しについても知らせている。	・毎日の繰り返しによって、コロナウイルス感染防止のための習慣が定着してきている。 ・マスク着用も習慣化し、他の感染症もほとんど発生が見られないことも成果の一つといえる。 ・行事の開催に際しては、保護者の理解と協力が得られている。	・公立4園連絡会での共通認識のもと、志染保育所として「コロナウイルス感染拡大防止のための配慮事項について」を作成している。クラスごと・保育・保育士・運動会等、項目を設けて具体的な予防策を文書化し、職員が各保育場面で統一した取り組みが行えるようにしている。特に、絵や歌で正しい手洗い方法を説明したり、繰り返し見本を示したり言葉がけをすることにより、子どもへの習慣づけが定着し、他の感染予防にも効果が出ている。子ども同士がマスク着用を呼びかける等成長もみられる。特別支援を要する園児には、加配職員により個別に促すよう配慮している。 ・保護者参加の行事について、職員間で何度も検討を重ね、行事前に保護者に事前説明し、円滑に実施することができている。運動会について、戸外・規模縮小・時間短縮・2部制・保護者の人数制限・応援席指定・競技内容変更・マスク着用・消毒・検温等により実施でき、保護者と共に子どもの成長を共有することができた。楽器演奏ボランティアの演奏も、園庭で行うことにより実施できた。クリスマス会についても、広いホールでクラスごとに行う等、検討を重ねて実施に向けて取り組んでいる。
良いところ自慢!	(保育内容) ・ひとりひとりのびのびと元気に遊んでいる。 ・広い園庭で小動物を捕まえて飼育したり、野菜の栽培を行い自分たちで世話をしている。	・自然いっぱいの環境を生かして、四季を体いっぱいに感じて豊かな感性を育てる。 ・自分たちが野菜を実際に育て、収穫しクッキングを楽しみ、食材に興味を持つ。	・戸外遊びの時間を十分に取り、好きな遊びを見つけられるようにしている。 ・異年齢児交流を行い、伝統として、次の学年に遊びが伝わったり、年上の友だちを目標にしている。 ・朝登所すると小動物や野菜の世話をすることを自分たちの話し合いで決めている。	・念願の登り棒も設置することができ、木登り用の木の点検や手入れも行い、志染保育所ならではの戸外遊びの環境を整えることが出来た。 ・コロナウイルス感染防止策を施し、異年齢間の交流を始めることが出来ている。 ・クッキングの実施がなかなか進まないが、調理師の協力を得て、出来る範囲で子どもたちに体験の場を設けている。	・伝統的に異年齢児の交流が保育の中で行われており、年長児の遊びが下の年齢の子どもたちに伝わったり、年長児が年少児の良き目標になったりとプラスの循環が生まれている。また、小動物や野菜の世話をする役割を子どもたちの話し合いで決めるようにしており、主体性や社会性を養う場を設定されている。 ・新型コロナウイルス感染症対策では、手洗い・うがいなど「安全」・「安心」のための生活習慣として子どもたちが身につけられるように、丁寧に指導されていた。また、自然環境に恵まれた立地を生かして、子どもたちが野菜を育てたり小動物をの世話をしたり、自然に「命」と触れ合える保育がなされている。
	(管理・運営面) ・子どもたちひとりひとりの人権を意識し、情報を職員全体で共有し、同じ方向を向いた保育を行っている。 ・保護者とも細やかにコミュニケーションを取り、良好な関係づくりに努めている。	・主体的に行動する力や自尊心を育む。 ・遊びの環境を整える。	・ひとりひとりの子どもと職員全体が関わられるように、毎月の職員会議等で情報共有を行っている。 ・保護者の立場も認め、責められるような思いにならないに気を付け、話しやすい気持ちを持てるようにしている。	・職員会議の内容は詳しく記録に残し参加してなくても、情報共有ができる工夫が出来た。 ・他の園から遊具を譲ってもらい、新しい遊具を設置することが出来た。	・子どもについての情報共有を、主に毎月の職員会議で行い、多数の職員が出席できるように2回に分けて実施している。「職員会議録」に会議の内容が詳細に記録されており、出席者も欠席者も回覧して確認することで、方向性を統一して保育を行えるように取り組んでいる。 ・保護者の相談窓口を所長・主任とし、保護者からの相談に適切に対応し、信頼関係を築いている。相談内容や対応を、「保育日誌」や「相談記録」に記録し、職員間で情報共有している。また、人権にも関わる複雑な内容については、「ケース会議録」や「児童相談」に記録し、特に対応に配慮している。適宜、専門関係機関につなげ、連携を密に支援している。
ここを改善!	(保育内容) ・園舎が狭く、収納スペースがない。 ・特別支援児をたくさん受け入れているが、クールダウンできる部屋がなく、切り替えに時間がかかってしまう。 ・特別支援児の保育が1日を通して続いている。	・保育室にコーナーを作って遊びを分ける。 ・床にも区切りをつけて場所の確保をする。 ・図書室をクールダウンの場所にする。 ・連携し合う。	・パーティーションを年齢に合わせて作成して、保育室の中に空間を作り出している。 ・職員会議等で、リアルタイムに今の段階を伝え合う。 ・1回目の評価での講評を受け、考え方の改革や振り返りを行っている。	・保育者の意識改革をしていこうと取り組み、職員会議等で話し合いを重ねていった。職員間の連携がさらに出来るようになり、お互いに自分達の行動を確認しながら、保育が出来るようになった。 ・保護者とも話をしていき、保育所での状況を伝え連携を続けている。	・支援の必要な困っている子どもたちへの配慮として、保育室の空間をパーティーションを使って区切ったり、子どもがパニックになってしまった時のクールダウンの場所を工夫したり等々、職員間の共通理解を図りながら、一人ひとりに配慮したきめ細かな取り組みを進めている。
	(管理・運営面) ・プレハブ園舎の環境が整わない。冬は特に床が冷たく午睡時は冷えを感じる。コロナウイルス感染防止対策の換気を行うと室温が下がりすぎてしまう。	・少しでも早く対策してほしいと訴える。	・急場しのぎの対策を考えている状態である。(網を張り付ける・壁際に行かないように物を置く・冷暖房を早めに入れて室温調整を行う)	・寒さ対策が目前に迫っているので、予算の範囲内で具体的な対策を考えている。	・夏は、プレハブ園舎の窓枠に網を張り付け、換気と虫よけを行った。子どもが窓際に行かないよう用具の配置を変更し、やけどを防止した。例年は本園舎で午睡していたが、今年の冬は密を避けるためプレハブ園舎で午睡するため、床の寒さ対策が課題である。プレハブ園舎にはジョイントマットを敷いているが、足元の寒さ対策として、市と相談の上、蓄熱発熱マットの購入等を検討している。本園舎に空気清浄機を設置するため、コンセントを増設した。